

慶應四年戊辰閏四月

太政官日誌

第十四

西垣文庫
文庫 10
7318
7

特 文庫10
7318
7

官日誌第十四

薩州藩ヨリ届書之寫

東山道為先鋒弊藩ヨリ差出置候人數ノ内野州
邊賊徒亂入致シ 官軍為應援一小隊并長州一
中隊大垣一中隊被差出候裏先月廿日岩井驛ニ
於テ賊兵千五百人許ト及戰爭互ニ大小砲打合
頻リニ攻撃ニ及候處纔半時許ノ間ニ賊兵散々
敗走賊首百餘級打取大ニ勝利ヲ得分捕數多有
之喫藩手負討死別紙一印之通ニ御座候



西頭文庫

同月廿三日壬生城ヨリ弊藩一小隊大垣一中隊
宇都宮城へ折籠居候ヲ打破リ追々相進堀雁迄
押詰候折柄賊兵裏路ヨリ機出官軍ノ後ヲ絶切
前後ニ敵ヲ受難戦ニ及候故伏兵ヲ設前之賊兵
ヲ支へ置後ノ賊兵ヲ打挫キ三時餘ノ戦ニテ味
方ヲ一所ニ相圓メ兵糧相遣ヒ候裏無テ岩井驛
ニ於テ相戦居候右三藩之兵結城ヲ相發シ本街
道ヨリ押来リ因州ノ兵隊ハ壬生路ヨリ相進兩
道ノ應援諸勢會戦ニ及候。月大ニ力ヲ得又々

進撃致シ候處終ニ賊兵及敗走。官軍大勝利ニ相
成賊首百數十級討取分捕モ數多有之宇都宮城
ヲ乘取リ藩士モ追々歸城ニ相成野州邊都ヲ鎮
定致シ賊兵日光へ逃去候由其節弊藩手負討死
別盛一印之通御座候
右之通兩戦共。官軍大勝利ヲ得候趣申越候間
不取敢御届申上候以上

閏四月八日

鳴津修理大夫内

新納嘉藤二

○討死

○一印

河野壯八
大卒 藤助

○手負

兼手

野崎喜左衛門

兼手

瀨戸小吉兵衛

○二印

鵜木五左衛門

○討死

上田友輔

川北六左衛門

永山覺太郎

加納次右衛門

築地宗次郎

松井千郎兵衛

鵜木吉次郎

岩水平右衛門

○手目

西田要之丞

草野貞太郎

伊地知助五郎

岩切彦次郎

佐藤彦五郎

井上伊衛門

内藤金治

鳴津式部

有馬藤太

野津七二

美代藤之丞

野崎善之進

野崎吉之丞

税所龍右衛門

上原八郎

菱刈七之助

有川陽之助

松元清右衛門

横山勇蔵

安田仙左衛門

脇元喜之助

伊藤正次郎

市成彦七衛門

宇宿彦之丞

山下喜之助

高郷左衛門

伊集院小藤次

赤千

矢野八次郎

同

廻源五左衛門

同

川上彦八郎

薄手

鎌田喜之助

同

川崎兵十郎

同

大迫新八郎

之輕

河野伊兵衛

禮子田左門

宇都岩太郎

下部一人

長州藩ヨリ届書之寫

東山道先鋒ハ無テ宰相家來出張兵之内一中隊
 總野國邊ハ為應援被差出四月廿三日朝五ツ時
 下總國結城々下發足宇都官ハ進候處同日朝四
 ツ時頃ヨリ壬生通宇都官ハ進候薩兵其外安塚
 卜申所ヨリ賊徒ニ行逢テ追々進撃城下迄迫候
 處賊裏ニ出及苦戰漸切扱引取候途中ハ右契藩
 中隊出會薩州大垣回州等諸手軍議相決シハツ
 時ヨリ再々賊ノ根據宇都官城ハ押寄候處城下

口ハ賊ノ斥候隊二三十人東照宮卜書記有之旗
 ヲ立備居候ニ付暫時ニ打敗相進候處城并東南
 之裏ニ當リ八幡明神卜云フ二山ニ賊勢盛ニ備
 居候ニ付城大手搦手彼二山正面等ヨリ同時ニ
 嚴シク打掛餘程激戰ニテ終ニ暮六ツ時城及ヒ
 二山共攻落殘兵日光邊敗走ニ及ヒ大勝利ヲ得
 賊死人百數十人有之候 官軍ノ内於弊藩者嚮導
 河村源之允鼓手永田峰太郎卜申者兩人戦死仕
 候段出先ヨリ遂往進候ニ付此段不取敢御届申

上候以上

閏四月

長門宰相内

寺内暢三

大垣藩ヨリ届書之寫

東山道先鋒へ出張為仕置候采女正人數之内去
月廿二日野州小山驛迄相進候處賊兵壬生城へ
襲來甚危急之趣因州勢ヨリ申來候ニ付不取敢
同所へ驅付候得共既ニ戰爭後ニ御座候然ル處

賊兵宇都宮城ニ楯籠居候由ニ付翌廿三日朝薩
州勢ト合兵進軍之靈城ト七八丁手前ニテ及接
戰頗ル苦戦ニ御座候得共遂ニ討退ケ賊兵不殘
城内へ引籠候ニ付直ニ二之丸迄討入候然ル處
薩州長州樂藩三手之斥候隊モ城外ニテ一小戰
致シ同所へ落合來候ニ付軍議ヲ決シ薩州勢ハ
搦手ヨリ攻寄長州勢ト樂藩人數八大手へ向ヒ
及發砲夫ヨリ必死ヲ極メ諸手救應吶喊奮撃因
州勢モ應援致シ遂ニ向背ヨリ城中へ衆入賊兵

八盡夕日光山ノ方へ落行申候乃日暮ニ至リ總
軍凱歌ヲ奏シ候由尤討取分捕ハ取調之上追テ
可申達之旨急便ヲ以申越候當手之討死手負ハ
別紙之通ニ御座候此段於出先御總督府へ御届
可申上事ニハ御座候得共不取敢御届申上候以
上

閏四月十日

戸田宗玄家來

北合清之介

柴崎秀房衛門

○討死

大砲隊

大島孝次郎

同

高水辰之助

先手組

岩佐幸之助

○手負

深手

大砲隊

高橋養之助

同

壯士隊

栗田弥保次

同

兼用隊

山田喜太郎

同

清水藤太郎

同 同
先手組
大橋源之助
小寺庄次郎

附記

武藏下總下野戰録

結城之主水野日向守去ル三月廿五日徳川彰義
隊ヲ率ヒ居城ニ歸入セントス家老小幡兵馬小
幡兵八郎鈴木半之丞其外同志ノ者六十人日向
守舎弟ヲ奉ヒ兵隊ヲ城下口ニ繰出シ彰義隊ヲ
抗拒ス然ニ交戦暫時ニシテ正義黨打負兵馬縛
首兵八郎討死其餘散亂或ハ上京シ或ハ板橋東
山道御本陣へ事状ヲ報告ス其頃又宇都宮ヨリ

大政官上計第...
賊徒稍切迫ニ及フヨシ注進有之テ 官軍ノ援兵
ヲ乞フ仍テ東山道御手ヨリ彦藩須坂藩堀藩并
元徳川旗本岡田景一手五千兵隊等御繰出シニ
相成都合百五十人許長州祖式金八郎岩倉殿御
内香川敬三兩人叅謀トシテ之ヲ引率シテ四月
朔日千住往還ヨリ押出ス同月二日流山ニ賊徒
屯集ノ由ニテ乃押寄セ小銃ヲ打懸テ攻戰候處
賊徒程ナク分散シ賊長近藤勇ヲ擒シ板橋ニ
檻送ス其ヨリ追テ日光道中ニ進ニ同月五日結

城ニ逼リ 官軍ヨリ結城ヲ放火シ候處賊兵及
水野日向守ト共ニ遁レ走ル其ヨリ 官軍兵隊
ヲ分チ祖式金八郎須坂藩ヲ率ヒ結城ニ籠城シ
香川敬三彦藩岡田手ヲ率ヒ守都宮ニ應援トシ
テ楯籠ル然ル處四月十日頃江戸深川邊ニテ旗
本撤兵隊等大ニ金銀ヲ募リ利根川ヲ泝リ関宿
邊ヨリ上陸シ日光道中兩道ヨリ押登リ且賊兵
艸風隊彰義隊七聯隊等其外數種ノ大旗ヲ押立
漸々結城守都宮ニ逼ル仍テ結城ヨリハ武井宿

宇都宮ヨリハ小山宿ニ兵ヲ繰出ス同十六日兩
所一度ニ交戦ト相成雙方死傷少々コレアリ遂
ニ官軍少勢ニシテ利ナク軍ヲ班メテ一同ニ
宇都宮ニ引揚ル賊軍繼テ宇都宮ニ逼リ十九日
攻撃頗ル急ナリ 官軍及ヒ宇都宮藩戮力拒戦
スト雖氏賊大軍ニテ遂ニ支ヘカタク宇都宮落
城ニ及ヒ藩主館林ニ走リ一藩近郷ニ散亂ス
官軍亦絹川ヨリ関宿邊ニ下ルント欲シ先ツ彦
藩兵隊舟ニ乘リ其外跡舟ニ乗込ニ既ニ纜ヲ解

カントスル所ハ向堤藪ノ中ヨリ賊兵銃丸雨ノ
如ク打懸ク 官軍之カ為メニ混雜一形ナラス
彦藩創ヲ被ルモノ甚多シ小山宿武井宿ノ戦ヨ
リ常州笠間野州壬生等 官軍ニ應スト雖氏志
ク劔槍隊ニテ遂ニ賊ノ為ニ撃破ラル其由板橋
御本陣ハ注進有之早速薩長ノ兵隊救應可致ノ
旨御令ヲ蒙リ薩藩五番隊六番隊長州ニ番中隊
大垣ニ小隊十八日板橋宿ヲ發シ十九日幸手宿
ニ宿陣ノ處賊兵千人許江戸ヨリ脱走今夜岩井

宿ニ止宿シ閑宿ヲ取切利根川ヲ絶ントスルノ
状間諜歸報ニ付其夜八ツ時頃直チニ整隊薩五
番隊長ニ番中隊垣ニ小隊先閑宿ヨリ押出シ翌
廿日夜刺岩井宿ヲ距ル一里許ノ處ニ至ル賊
兵モ是所迄押来リ直チニ攻撃一時餘リ官軍
大ニ打勝チ賊兵悉ク散亂ス官軍北ルヲ逐フ
賊長山中光司渡邊綱之介會岩井宿ヲサシテ走
ル我兵渡邊ヲ狙撃スレテ遂ニ中ラス此日薩藩
一人討死手負一人長藩田中甚吉討死ス賊兵多

畑ニ斃ル者六十人餘是夜岩井宿滞陣翌廿一
日境宿ニ泊リ二日結城ニ入ル廿二日宇都宮
ヨリ賊兵並生ニ向テ繰出ス薩六番隊土藩曰藩
亦壬生城ヨリ出テ安塚ニ迎ヘ戦ヒ官軍勝利
是日大風雨ニテ砂石車軸ヲ流ス遂ニ深ク追ハ
ス軍ヲ班メテ壬生ニ歸ル廿三日早朝賊徒再ヒ
壬生城ニ向テ兵隊ヲ繰出ス是日薩垣先鋒亦安
塚邊ニテ相戦フ賊軍稍ク退縮官軍進テ宇都
宮城外ニ逼ル然ル處賊徒間道ヨリ後ニ廻リ糧道

ヲ絶シ三方ヨリ合撃シ飛丸如霰薩垣大ニ苦戦
此日回藩後継ノ約アリ然レモ未至詮方ナク大
砲ヲ以テ一方ニ打向ヒ續テ小銃ヲ以テ無二無
三ニ衝撃シ程ナク一道ヲ開ヒテ出各水ヲ飲ミ
汗ヲ拭フ時ニ薩五番隊長藩二番中隊大垣二小
隊舊宿ヨリ驅来ル賊ノ斥候隊之ヲ見テ一發
ニモ不及城内ニ走リ入り中央ニ會藩東照宮ト
書シ大旗ヲ押立テ隊長ト相見ユル者亦同様手
旗ヲ持テ其兵ヲ指揮シ 官軍ニ向リ 召軍急

遽糧ヲ傳ルヲ暇ナク之ヲ望ニテ直手ニ攻懸ル
薩六番隊大垣小隊之カ為ニ力ヲ得再ヒ奮テ城
ニ打向フ此城下ニ明神山八幡山ノ兩山在リ賊
兵固ク之ヲ守ル 官軍攻撃愈勉ムト雖モ更ニ
落城ノ目途ナク日ハ將ニ西山ニ没セントス
官軍乃チ意ヲ決シ大砲火箭透間ヨリ城内ニ打
懸テ関ヲ作テ一齊コレニ逼リ斃ル者ヲ願ミス
殊死シテ攻撃ス賊勢之カ為ニ辟易シ城内兩山
一時ニ潰ユ黄昏終ニ宇都宮ヲ回復ス

一是日再七城内ニ攻懸リシ時因藩亦驅付河田
佐久馬大ニ奮テ兵隊ヲ勵マヌ仍テ因兵頗ル力
戰ス

賊徒諸所ノ敗兵悉ク宇都宮城ニ輻湊ス仍テ
此戰賊軍大軍ニテ早朝ヨリ交撃日中殊ニ勵シ
ク煙歟天ニ漲リ是カ為ニ人面黄色ニ見ユルニ
至ル

今朝苦戰 時薩六番隊討死十五人手負二十
人餘大垣一小隊手負一十人餘内三人即死

一城攻ノ時薩五番隊討死一人手負二人回藩手
負三人内二人即死長藩討死二人也

一賊討死無算死敵城内ニ埋メシ所三ヶ所城外
ニ一ヶ所落城之時急遽ニシテ其儘斃レシ者凡
百人許ト云

慶應四年辰四月

長州第一大隊二番中隊々長 楠崎頼三

官版 不許翻刻

御用御書物所

東洞院三條上町

村上勘兵衛

堀川二條下町

井上治兵衛

